



第54号 Forward

編集責任者
沖縄尚学高校
PTA文化教養部
那覇市国場747
☎ 832-1767
FAX 834-2037
発行 (株)尚生堂
平成31年2月8日

暖かみ・厳しさ・知性

沖縄尚学高等学校PTA新聞 感謝と奉仕

E-mail query@okisho.ed.jp

HPURL http://www.okisho.ed.jp

「風格と親近感」を 感じさせる進学校創り



名城 政次郎
理事長・高校校長

「風格と親近感」を感じさせるべく、進学校を標榜（ひょうぼう）して「沖縄尚学高等学校」を発足（はつそく）（一九八三年・昭和五十八年）してから、今年で三十五周年の節目を迎えました。本校の職員・生徒・保護者の皆さんが本校の

教育の推進に協力して下さいました。創立以来、中高一貫体制の下、県内・県外・海外の難関大学に多くの卒業生を送り出してきました。これ（過去三十三年間）までに国立大学五・一三五名（旧帝大二八六名）・医学科（五五〇名）・海外大学（二七〇名）の実績があります。また、スポーツ面、文化面でも大きな成果を挙げてきました。全国高校野球甲子園大会優勝二回・明治神宮野球大会（全国）優勝、全国柔道選手権大会優勝、全国なぎなた大会優勝などの栄冠に輝きました。文字通り「風格と親近感」を感じさせる「文武両道のたくましい進学校」として、沖縄の戦後教育史に大きな金字塔を打ち立ててきたと自負しています。卒業生の皆さんは卒業後も本校の二つの学校訓の理念を、日常生活の中で周りの人に感じさせるように行動してほしいと思います。

●怖れず・悔らず・気負わず やるべきことに取り組みます

●暖かみ・厳しさ・知性を身につけ 感謝と奉仕の心を実践します

本校の卒業生は、あらゆる分野で活躍しています。そして、多くの人々からその人間力が高く評価されています。

このたび、創立三十五周年を記念し、来る三月十六日（土）に、第一部は、名城政一郎副理事長が「二十一世紀型教育システムの構築―グローバル進学校とは―」を講演し、第二部は、私が副理事長との対談形式で「怖れず・悔らず・気負わず―私が歩んできた道―」の題で話しをさせていただきます。つきましては、ご家族、友人・知人、お誘い合わせの上、ご出席くださるようお願い致します。

活躍するOB

No.4

「グローバルに活躍されますように」



東北大学大学院
経済学研究科教授
西出 優子

「沖縄という小さな島から出て、広い日本・世界を見て視野を広げたい。」このような思いから、沖縄尚学卒業後に東京の大学に進学し、米国留学も経験しました。ボランティアや国際協力NGO等との出会いから、海外で国際協力に携わりたいという思いもありました。しかし、沖縄を離れて思い知らされたのは、自分がいかに沖縄や日本の歴史や文化について無知であるかということです。その後、他者を理解し世界を知るには、まずは、自分のルーツを知り、確固としたアイデンティティや価値観・意見を持つことが重要だとわかってきました。また、国際貢献という外に目をむけていましたが、実は、自分の周りにも身近で重要な社会的課題が数多くあることに気づきました。グローバルな視点を持ちつつ、地に足をつけて、当事者意識や市民性をもつて、社会の一員として役割を果たし、グローバル（グローバル＋ローカル）に行動することが、グローバル市民なのですね。

長年にわたる試行錯誤、挑戦と寄り道、成功・失敗を通して、私自身はやつとこのように思い至りました。現在の在校生の皆さんにとっては、日々、学校で学び身につけていることとでしょう。沖縄尚学では、現在、グローバル教養人を育成するために、沖縄空手やボランティア体験、異文化交流など、勉強以外にも多様な取り組みを行っている伺い、感銘を受けました。特に沖縄空手を身につけることは、世界のどこに行っても自負できる、沖縄尚学ならではの独自の取り組みで、皆さんにとって大きな強み・土台になることでしょう。私がグローバルリーダーの育成を目指している大学で学生の教育に携わって約10年がたちますが、沖縄尚学中高における文武両道でグローバルな人間力・教養を育成する取り組みは、二人の大学人からみても非常に画期的であり、目を見張るものがあります。熱意溢れる先生方や志の高い同級生に囲まれた沖縄尚学で学んだこと。それは、「基礎・継続は力なり」「自分の言葉を持つ」「志を高くもち、挑戦する」「切磋琢磨できる友人・仲間をもつ」という4点です。特に、「自分の言葉を持つ」という、恩師である副理事長・名城政一郎先生の言葉は、今でも心に刻み、日々の励みとしています。

現在、私も教育者として多様な学生に向き合っています。NPO（非営利組織）論を担当しているからでしょうか、進路・キャリア、自信喪失、障害、LGBTQ（性的少数者）等、学業を超えた相談も受け、一緒に悩み寄り添いながら自分の言葉で語りかけています。彼らが成長することが、大きなやりがいです。今があるのは、沖縄尚学での、毎回の授業に熱心に臨まれ、進路相談にも親身に対応して下さった先生方や、一緒に切磋琢磨してきた同級生のおかげです。この場を借りて深く感謝申し上げます。在校生の皆さんも、沖縄尚学で、良い出会いとつながりを大切に、人生の土台を培って、グローバルに活躍されますように。

沖縄県南城市出身。上智大学外国語学部卒業。シラキユース大学公共経営大学院修士課程修了。大阪大学国際公共政策大学院博士課程修了。2007年より東北大学にて、非営利組織論・震災ボランティア、経営組織、等の授業を担当。著書に『Social Capital and Civil Society in Japan』、『はじめのNPO論』(共著) など。

「真剣になる」習慣が人間力を伸ばす



高校副校長 名城 政一郎 博士(教育)

樋口会長 以下、保護者の皆さん、常日頃の学園へのご支援ありがとうございました。

います。今年度も終盤に入り、三年生は二月十日に卒業式を迎えます。今年の三年生(三十四期)は「基礎をやり切って勝負の場へ出し切り、ベストの自分になってベストの大学へ」をスローガンに取り組んできたプロジェクト三十を「リードしてきた」学年です。石井淳先生(教務主任)、伊元九弥先生(学年主任)、三学年を担当した先生方そして三十四期生はその重責を十分果たしてくれました。現在の冲尚では「やり切って出し切る」が当たり前になりましたが、第三十四期生の果たした役割は大きかったと実感しています。

さて、卒業生のみなさんは、冲尚での学園生活で「真剣になる」習慣が身についたはずで、これは人間力を伸ばす習慣が身についたことを意味します。チェックポイントを整理すると、「プロセスの真剣さ」と「勝負の場での真剣さ」になります。まず、プロセスの真

剣さは、日ごろの取り組みで「できないことをできるように」「わからないことをわかるように」「しよ」と必死になったか自己チェックできます。ちなみに「わからないことがわかるようになった」かは「自分の言葉で説明できるか」でチェックしてください。勝負の場での真剣さは、やり切った基礎を出し切ろうと全力を尽くしたか、そして勝負の場を「学習の機会」にできたか自己チェックできます。勝負の場でできなかったことは、くやしきも大きいので、できるようにしたいという気持ちがあり強くなります。定期試験や模擬試験でできなかった問題をできるようにする「満点プロジェクト」の学習効果が高いのはそのためです。本番の大学入試も学習機会ととらえれば、併願校を受験するたびに「確実に」学力が上がっていきます。

第三十四期生の皆さん、冲尚で身につけた「わからないことをわかるようにする力」と「できないことをできるようにする力」がグローバル学力であり生涯学習力であることを忘れず、学び続けてください。道は必ず拓けます。卒業おめでとうございます。

「楽しく」異文化交流

高校一年保護者 宜保 まきえ



平成三十年は、我が家ではホストファミリーとして、二月末から十月末の間にインドネシア、台湾、オーストラリア、四人の留学生を受け入れ、素敵な出会いの年となりました。

ホストを引き受けたきっかけは、高校の海外研修で、台湾の同年代の子の堪能な英語に衝撃を受けた経験を持つ長女(大学三年)の「身近で英語が話せる。世界に友達が増え、情報交換から世界の様子を直に知る機会。」という一言からでした。これまでに県外交流事業に参加して送り出しや受け入れの経験はあっても、仕事もあり、更に、英語が話せない私が留学生とコミュニケーションや意思疎通が図れるか、他にも様々な不安もありましたが、娘達の英語力と世界的視野が広がる事を期待し、無理なく楽しむ事にしました。

休日の家庭交流は、他の受け入れ家庭と一緒に首里城見学、琉染体験、食事や賑やかに過ごし、家族では留学生に不安を持たないよう、留学生の前では日本語禁止として沖縄こどもの国、ボーリング、観光地廻り、庭でスイカ割りや雑談、買い物、夕食メニューを話し合い子ども達だけでの調理等、沖縄の一般家庭の生活体験をさせまし

た。インドネシア留学生へは、宗教上の食事の配慮を聞きましたが、牛肉、鶏肉、魚を利用し、豚肉を使わないだけで苦慮無く関わりました。子ども達の様子から懸命に英語を交わす姿や相手理解に努力する姿に感心するばかりでした。

異文化交流プログラムに関わった事で、留学生の国の文化や生活の様子、学校生活や英語が堪能となるわけ等を知り、良かった点として、以前に比べ娘達が世界への関心が高まり、英語力向上を意識した事です。その後も留学生達と連絡を取り合い、友情を深めている事もうれしく思います。また、機会があれば受け入れて楽しみたいと考えています。



目標を共有し

「やりきり」「出しきる」



副理事長補佐 與座 宏章

平成三十年二学期から、中国上海出身の生徒十人が高校二年に在

学中です。これらの生徒は、いずれも上海信男学園（魯林理事長）からの編入生。沖縄尚学で高校卒業資格を取得し、日本の大学への入学を目指します。平成三十年二月、上海信男学園と尚学学園は「グローバル教養人を育成する」という共通目標の下、同学園の生徒を本学園の編入生として受け入れる協定を締結しました。上海信男学園は、日本の高校教科書とカリキュラムを使って教育しており、同学園の生徒は、現地で高校二年課程を終了し、本学園を含む日本各地の教育協定校に編入し勉強します。



本校に編入した十人の生徒は、在籍する各クラスで沖縄尚学の一員として学校生活を送っています。また、グローバル寮で六人、尚学舎で四人が寮生活を送っています。文化や価値観が異なる新しい仲間たちと目標を共有し、ともに「やりきり」「出しきる」経験は本学園の生徒にとっても大きな刺激になっています。

平成最後の門出 思い出を胸に新ステージへ

三学年委員長・三年十二組
玉川 美香

乗り越えられない壁はない

卒業生の皆さん、保護者の皆さま、ご卒業おめでとうございます。

思い起こせば六年前、沢山の希望と沢山の不安を抱えて大阪から沖縄尚学に入學させて頂きました。沢山の学校がある中で、沖縄尚学への進学を希望した息子の選択を、私は今、誇りに思います。

理事長先生はじめ、沢山の先生方、沢山の友達、そしてPTAを通じて出会えた沢山の親御さん達、沖縄尚学で学び過ごした六年間は、私達親子にとって、かけがえのない時間でした。親子共々、沢山の経験をさせて頂き、成長させて頂きました。本当に有難う御座いました。

さて、卒業生の皆さんは、これから沖縄尚学を巣立ち、それぞれ新しい学びの場所や、仕事に就く訳ですが、夢や希望を持って、これからも沖縄尚学で学び過ごした経験を生かし、ご活躍される事と思います。

しかし、これから年を重ねると共に、さまざまな困難に遭遇する事も多々あるかと思いますが、その困難から逃げずに、人として成長出来ると思いを、乗り越えて行して下さい。

「乗り越えられない壁はない」母がよく私に言っていた言葉です。乗り越えた先に、素晴らしい人生が待っている筈です。「怖れず 侮らず 気負わず」の沖縄尚学の精神を忘れず、沖縄尚学で出会った人達とのご縁を大切に、夢に向かって日々精進して下さい。

最後になりましたが、沖縄尚学の益々のご健勝を祈念申し上げます。本当に、有難う御座いました。

教頭
金城 英和

卒業生に贈る言葉

卒業おめでとうございます。中学から入学した生徒は六年間、高校から進学した生徒は三年間、沖尚で過ごした生活はどうでしたか？卒業生全員が、毎日、教科の学習、英検、空手、ボランティア、異文化交流、部活動等に「やり切って、出し切る」という姿勢でベストを尽くし、充実した生活を送ってきたと思います。あつという間に月日が過ぎ、卒業を迎えたのではないのでしょうか？朝と帰りのホームルームで唱和した学校訓の精神「怖れず 侮らず 気負わず」暖かみ 厳しさ 知性「はこれから新しい生活をスタートする卒業生のみならずにとつて、きつと、いろいろな場面で励みになると思います。ミレニウムベイビーとして誕生し、平成最後の年に高校を卒業し、新元号の年に新しい生活をスタートするみなさんの行く手に、幸多からんことをお祈りしています。

高三学年主任
伊元 九弥

心からの尊敬と感謝をこめて…
「世代の離れた多くの同志たち、また逢いましょう。」

第三十四期卒業生の皆さん、高校卒業おめでとうございます。いよいよ新たな世界へ翔び出す時がやってきましたね。皆さんと共有できた三年および六年という月日は、私自身、挑戦と失敗、そして失敗を乗り越えた成功・成長の連続でした。

何物にも換えがたい大切な思い出をくれた皆さんに、私は教師として、二人の大人として何を伝えることができただろう…。私なりに「心不乱に走り続けてきたつもりですが、「私なり」「は所詮」「私なり」であり、「つもり」「もまた」「つもり」です。私自身で解決できないこの答えは、他ならぬ君たち一人ひとりが持っています。

常に逃げることなく己に向き合い、そして人のために汗を流せる人。君たちがそういう強さと優しさを兼ね備えた大人へと成長し、平成最後という一つの節目とともに迎えた「同志」として、どこかで逢える日を楽しみにしています。そのとき、私は「答え」に辿りつけると信じています。

沖尚に来てくれてありがとう。こんなちっぽけな私を、君たちの先生でいさせてくれて、ありがとう。そして、沖尚卒業、本当におめでとう！君たちは、私の大きな誇りです！



三年一組担任
小山 佳孝

まずは受験

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。この一年は今までの人生の中で精神的なプレッシャーが最も強かった期間だったのではないかと思います。ですが、殆どの人は、これから先の人生のどこかのタイミングで「受験勉強はかなり楽だったんだなあ」という感想を持つことになるはずです。つまり、本当の勝負所はこの後に来ます。来るべき人生の勝負所で存分に力を発揮できるように、実力を蓄え成長していつか欲しいと願っています。とは言っても、その前に受験があるわけで、まずはそちらで悔いの残らないようにしなければなりません。良い結果が得られるよう祈っていますので、皆さんは、受験勉強を頑張ってください。



三年二組担任
桑江 涼

あつという間の一年

今年度は、緊張感と不安、期待を胸に抱き、初めて担任をさせて頂いた十一年前を思い出させる位、一日一日が嵐のようにあつという間に過ぎて行った二年間でした。

中学 高校男女バレーボール部&地区陸上&駅伝代表メンバー、そして三十四期生の皆さん

へ。君たちにとって「沖縄尚学」はどんな場所になりましたか？全力で汗を流した君も、堪えきれず涙を流してしまったあなたも、腹の底から大笑いした君も、共通しているのは、いつでも帰って来れる場所が増えたということです。この思い出の詰まった、仲間と過ごした母校が一生の財産になると確信しています。

三年二組の皆さんへ。喜怒哀楽を共有し、励まし支え合った高校最後の貴重な二年間を共に過ごすことができて幸せでした。願わくばあと二年同じ学年で過ごしたかった笑。君たちに出会えて本当に良かったです。ありがとうございしました。これから先も君たちの成長や活躍を心から応援しています。

☆誰よりも輝く星(ひと)になり、誰かを照らす星(ひと)になろう☆



三年三組担任
松浦 聡子

感謝と謙虚を忘れずに

ご卒業おめでとうございます。明るく朗らかで、ユーモア溢れる皆さんと二年間という貴重な時間を一緒に過ごすことができたこと、また、皆さんがこれから新しい世界に旅立つ門出を一緒に祝うことができることを、今、大変嬉しく思っております。今、皆さんはどんな気持ちですか？不安や期待、様々な気持ちが一緒になっているかもしれません。でも、一人一人に必ず進むべき道があります。他人と比べて判断することなく、自分しか進めない道を誇りに思いながら、自分らしく進んでいくください。高校、大学、社会という点と点を結びながら皆さんの前に広がっていく道を二歩一歩確実に。逆境に出会った時こそ、小さな希望の光を大切に。周りに感謝し謙虚に生きることを忘れずに。自分らしい未来にむけて、新しい一歩を踏み出してみてください。皆さんのこれからの活躍を期待しています。



三年五組担任
松田 紀雄

最後まで諦めず

卒業生の皆さん、並びに保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆さんの担任をさせて頂き、あつという間の二年でありました。高校三年生は行事(遠足、新入生球技大会)は少なく、将来の自分の進路に向けての取り組みが中心でありました。大学受験は、「正しい方向で、正しい努力、自分に負けない強い意志」が必要だと思います。皆さんはクラスの仲間と切磋琢磨し、学力向上に努めてきました。担任として朝のSHRにて、学習の様子や表情、集中力の持続など、皆さんが逞しく成長していく瞬間が日々楽しくもあり、喜びでもありました。センター試験を終え、二次試験に向け、目の前の受験を控え緊張と不安を感じる方もいることですが、沖縄尚学で学んだ皆さんなら、これまでの努力を自信に変え本番に臨める姿勢が出来ると思います。大事なものは最後まで諦めず必ず合格するという強い気持ちです。将来の自分の夢に向かって「気力・体力・根気」強く、自分を信じて描いた夢は必ず実現して下さい。皆さんのこれからの活躍を期待しています。



三年六組担任
米盛 浩郎

勇気を持ち続けて

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。この卒業で、大学や専門学校へ進学する人、就職活動で一足先に社会人になる人、進路はそれぞれ違うけれど、学ぶという姿勢は同じではないでしょうか。これからの人生、悔いのないように生活していくのは難しいことかもしれませんが、しかし、辛さや喜び、苦勞や達成感の中、自分なりにその状況の中から、何かを学ぶことができれば、それが成長へとつながります。

す。立ち止まることなく、前に進んでいく勇氣を持ち続けてください。あなたたちなら必ずできると信じています。そして、自分自身の喜びが、人に幸せを与えていくような選択ができる大人になってください。頑張れ、沖縄尚学高校三十四期生！



三年七組担任
石原 若菜

自分なりの幸せ

ご卒業おめでとうございます。初めて担任を持った学年と三年間一緒に過ごすことが出来て本当に嬉しいです。色々なことがあった三年間ですが、学校で皆さんの顔を見ると、元氣をもらうことができ、私の生きる活力になりました。皆さんはこの三年間、様々な思いを抱えながら過ごした学校生活の中で、肉体的にも精神的にも大きな成長を遂げました。高校を卒業後、皆さんはそれぞれの道を歩みます。進む道の先には楽しいことや辛いこと、様々なことが待ち受けていると思います。乗り越えないといけない壁が立ちちはだかることも何度かあると思います。その時は、自分のやり方で、また自分のペースで乗り越えていってほしいです。突き進むのもあり、立ち止まるのもあり、自分の思い思いの人生を生きて、自分がこれだと思いう成功を手に入れたらいい。心から応援しています。最後になりますが、一番大切なのは、自分なりの幸せを手に入れることです。幸せになってください。三年間どうもありがとうございました。



三年八組担任
鈴木 航

大好きな君たちへ、
出会ってくれてありがとう！

今、先生にとつて、たくさんの「幸せ」や「やりがい」や「生きがい」があります。結婚して家庭を築いていること。教員として働いていること。サッカーを続けていること。他にもあります。

が、これらの出来事に巡り会えたきっかけはすべて「人との出会い」です。人生は二つの小さな出会いの積み重ねで自分の人生を大きく変える人物や出来事に会います。既に大きな出会いを経験している人は振り返ってみて下さい。必ずその出会いの前に小さな出会いがありませんか？そして、その小さな出会いに繋がると別の小さな出会いがありませんか？だから、今までの、そして、これからの出会いを大切にして下さい。その出会いが、皆さんの未来へ繋がる大きな出会いかもしれませんよ？

先生はこのことを考えるといつもたくさんの人への感謝が溢れて、優しい気持ちになります。皆さんに出会えたことに感謝です。大好きな沖尚三十四期生の皆の活躍と成長を心から応援しています。



三年九組担任
町田 宗紀

未来の実現

卒業おめでとうございます。入学時の君たちの姿を思い返すと、今現在とのギャップに改めて流れた月日の長さを感じます。

四月にはそれぞれ異なる場所で新たな生活を始める事になります。大学や短大、専門学校でからスタートを切る者、予備校で捲土重来を期す者、社会へ出て働く者…

しかし希望する大学へ進学しても、希望する職業に就いても、君たちはまだ何かを成し遂げた訳ではありません。そこはスタートラインでしかないのです。その先で自らの能力を存分に高め、発揮する事で初めて、それぞれの思い描く未来は実現します。君たち二人ひとりが、何を成し遂げ、どのような未来を実現するのか。心から楽しみにしています。

最後に、保護者の皆様方には様々な場面で多大なるご支援を頂きました。6年間、担任として持ち上がり、生徒たちを見送る事が出来るのも、皆様のご理解とご協力があったからだと考えています。あらためて心より御礼申し上げます。



三年十組担任
幸地 準

TIME FLIES!

第三十四期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。高校入学から早三年、あつという間にこの季節が来てしまった、というのが実感ではないでしょうか。思う存分高校生活を満喫した人も、やり残したことがたくさんある人も、夢が実現した人も、道半ばの人も、人生のグランドデザインを描き切れている人も、社会に飛び出す勇気を持っていない人も、時間を止めることも、巻き戻すこともできません。卒業を迎えて期待感いっぱいの人もいるでしょう。何か割り切れない複雑な心境の人もあるでしょう。でも、ひとつだけみんなに共通点があります。素晴らしい仲間とともにたくさんさんの思い出がつくれたことです。高校時代の仲間は「生輝が続ける『宝物』」。高校時代の思い出は「生消えない『モニュメント』」です。

成人する時、就職する時、結婚する時、たまには、仲間が集まって思い出を振り返ってみて下さい。その時、改めて気づくでしょう。高校時代は後にも先にもない最も貴重な時期だったというところを。残り僅かの高校生活を、卒業式を大切に楽しんで下さい。

MAY ALL YOUR DAYS BE HAPPY!



三年十一組担任
高橋 和仁

『贈る言葉』と題された次の文章を読み後の問いに答えよ。

うんざりしながら「贈る言葉」を書こうとしている。言葉に限らず贈るのも贈られるのも嫌いだ。子供のころ盆暮に届く山と積まれた味の素やサラダ油を迷惑そうに眺める母の姿が思い出される。大体「贈る言葉」というものは聞く耳をもった相手にのみ通用することだ。教師のいつことを真面目に聞く生徒などがい

るとでもないのか。自分自信の高校時代をふりかえってみて今更ながら当時の先生が気の毒になる。馬鹿馬鹿しい。努力の無駄だ。

子供相手の言葉の無力さに書くことをあきらめながら、しかしこうも考えてみる。生意気盛りの高校生の時分虫の音くらいに聞き流した先生たちの言葉をふと思ひ出すことは今までの人生になかったかと言えるか。そうだとそのことは時々あった。人生が多くの豊かな光とそれと同じくらい多くの翳りがあることを知る過程である時の無力な言葉たちは確かに力の実在を示してくれたのだ。こうしてみると言葉はその人の人生とともにゆつくりと醸成していくものなのかもしれない。

今、私は人生の未知の多くの喜びと挫折を前途に春の日溜まりの学び舎を去る卒業生の姿と自分自身の姿を重ね合わせるのである。

問い この文章の論旨に即して、「言葉」について筆者がどのような認識をもっているかを考慮して傍線部の筆者の心情を説明せよ。解答欄 13・5 c m x 4 行



三年十二組担任
新里 歩

Risk Takers(挑戦する人)

IBプログラム三期生の皆さん、保護者の皆様ご卒業おめでとうございます。二年間のIBプログラムを通じてIBの十の学習者像(探求する人、知識のある人、考える人、コミュニケーションができる人、信念をもつ人、心を開く人、思いやりのある人、挑戦する人、バランスのとれた人、振り返りができる人)に近づけたでしょうか？

私はこの十の学習者像の中で、Risk Takerであることの重要性を強調します。幸運なことに沖尚では、生徒も教員もRisk Takerであることを選択できる機会が多くあります。一方で、リスクが大きすぎると周囲から批判を受けることもあるかもしれません。

しかし、米国の哲学者フルフルド・エマートン

ンは言っています。「敷かれたレールを進むより、自分で切り開かないと。自分の人生ですから」と。皆さんはRisk Takerの立派なお手本です。これからもリスクを取る勇気を忘れず、幸せな未来を切り開いて行つて下さい。三年間ありがとうございました！



三年十三組担任
宮城 和江

笑顔を忘れずに

卒業生の皆さん、これまで我が子を大切に育ててくれた保護者の皆様ご卒業おめでとうございます。

在学中は、多くのことを学んだと思います。いま貴方達人一人が大きく成長し、巣立っていく姿を目のあたりにし、こんなに嬉しいことはありません。貴方達は本校の文武両道の伝統を引き継ぎ、沖縄尚学の名を全国に響かせました。女子硬式テニス部の全国高等学校総合体育大会ダブルス優勝。野球部、男子柔道部九州新人大会団体準優勝。野球部、男子硬式テニス部の九州地区大会での活躍。なぎなた部団体3位。それぞれの部活動でベストを尽くして頑張ってきました。先輩方の精神を引き継ぎ、また後輩に戦う厳しさなどを身をもって示しました。

高校生活のさまざまな経験は、今後の大きな糧となることでしょう。これまでに養ってきた知力と体力で輝かしい未来を自ら切り開いて下さい。辛いこともたくさんあると思いますが、どんな時も笑顔を忘れずに頑張ってください。貴方達の笑顔は、周りの人たちだけではなく自分自身をも支えてくれるはずです。今後の活躍を祈念いたします。



一般公募推薦で合格の栄冠を勝ち取った生徒の一部を紹介します。具体的な対策、苦労したことなどが語られています。また、難関と言われる「沖縄電力」に合格した生徒もいます。後輩たちの今後の進路設計の参考になれば幸いです。



3の3
赤嶺 佑菜
沖縄県立看護大学

対策をしつかり

私は沖縄県立看護大学に合格しました。十月の初めに推薦入試に出願できることが決まり、それから1ヶ月は志望理由書や面接、小論文の対策だけを集中してやりました。今までセンター試験の勉強しかしていなかったため、小論文や志望理由書も思うようにかけず先生から何度も訂正してもらい書き方を教えてもらいました。そのおかげ



3の2
狩俣 舞衣
福岡教育大学

毎日の授業を大切に

私は高校から沖尚に入學し、今まで様々な体験をしました。空手や異文化交流、ボランティア活動、英検など沖尚でしか体験できない取り組みに積極的に参加し、自らの人間力や学力向上に精進してきました。そして無事、第3志望である福岡教育大学に合格することができました。合格するまでの道のりはすごく大変で時にはくじけそうになる時もありましたが、たくさん先生の先生方や両親、友達の支えや励

で、独力でも小論文を論理的に上手にかけるようになりました。しかし、模擬面接試験では緊張して、言うべきことを忘れてしまったり、質問に答えることが出来ないうちから上手くは行かず受験日の前日まで塾や学校の先生方と練習をしていました。受験本番では小論文を上手くまとめることが出来ませんでした。面接は沢山練習していたおかげで練習の時よりもしつかり自分の意見を述べつつ面接官の人達と話すことが出来ました。推薦では自分の事を大学にアピールする場なので、面接をしつかり対策するべきだと思いました。先生方の協力のおかげで、合格できてほんとに嬉しいです。

ましの言葉に何度も救われ、とても感謝しています。センター試験の勉強と並行して、小論文や面接対策をするのは大変な事であり、もっと勉強しておけばよかったと思ったこともたくさんありました。在校生の皆さんは、日々の授業を大切に、三年生になって「もっと勉強しておけば良かった、やっぱりあの活動にチャレンジしておけば良かった」と後悔することのないように今のうちから勉強だけでなく、様々な事に挑戦してほしいと思います。最後に、たくさん先生方、両親、友達からの恩を忘れず、大学へ行っても頑張っていきたいです。本当にありがとうございました。



3の13
前田 優歩
早稲田大学スポーツ科

沖尚での糧を大学に活かして

高校一年生の頃から第3志望の早稲田大学に進学したいと思っていたので、合格通知を見た時は本当に嬉しかったです。しかし、合格することが出来たのは私一人の力だけではなく、いつも指導してくれている先生方やサポートしてくれる家族といった沢山の人のおかげなのです。また、寮生活をしていたので毎日のご飯は学校の食堂を利用していました。そのため、量・質ともバランスの良い食事をとることができ、体力もつき体調管理もしつ



3の10
玉城 泰斗
筑波大学医学群医学類

先生方や級友に感謝

私は筑波大学医学群医学類に推薦入試で合格する事ができました。今、高校生活を振り返ると、もっと早めに進路について真剣に考えておけばよかったと思います。志望校を決めたのは高校二年生の時で、それまでは部活・辺りの生活をしてしまい、勉強に対する集中力があまりありませんでした。進路が決まれば、自分のやるべきことが明確になるので、まだ決めてない一、二年生は、できるだけ早めに考えてほしいと思います。

受験生活は、本当に多くの人に支えてもらったと思います。普段の授業だけでなく、受験前には面接対策や小論文対策、志望理由書のチェックなど、多くの先生方にサポートしていただき、本当に感謝しています。また受験直前は、人前では冷静さを装っていましたがとても緊張していました。それでも、たくさん先生方に支えられ応援してもらい、受験本番では大きな力になりました。あらためて、受験は人では勝ち抜いていけないという事を強く実感しました。沖尚での6年間の生活で学んだ事を忘れず、周りの人への「感謝」の気持ちをもち続け、大学入学後も頑張りたいと思います。

幼少期からしているテニスを大学入学後も継続します。早稲田大学庭球部は現在、大学日本一を決める大会において十三連覇という偉業を成し遂げており、そのような環境に身を置くことで、技術力向上も、もちろんですが人間力も身に付けることが出来ると思います。一年生からメンバーに入り、今年の十四連覇に貢献できるような選手になりたいです。また、早稲田大学は学問の面においてもトップレベルだと思うので高い質での文武両道を実践し、入学後も沖縄尚学で学んだことを最大限に活かしながら頑張っていきたいと思っています。



3の13
知念 大成
沖縄電力株式会社

貴重な財産

多くの人に支えられ私の目標である沖縄電力に入社出来る事をとても感謝しています。幼い頃から、大好きな野球というスポーツを続けて、楽しい時、苦しい時、色々な事がありました。小・中学校では、遊び感覚でやっていましたが、高校生となり真剣に野球に向き合うことにより勝つことの難しさ、チームワークの大切さ、その他細かい事なども真剣に考えながら取り組んで来ました。高校では、野球の名門沖縄尚学で甲子園を目指していましたが、目標を叶える事が出来ませんでした。昨年度の選抜をかけた「秋季九州大会」ではあと一勝のところまで甲子園出場を逃したことがとても悔しかったのですが、それよりも大切な事を多く学ぶ事が出来たと思います。沖縄尚学で体力は勿論、仲間をたくさん作ることが出来、人間力や基礎学力を身に付けた事は自分の財産となりました。この経験を活かし、沖縄電力では社会人野球日本一を目指し沖縄県に明るさ我希望をもちたらしめて恩返ししたいと思っています。

友利新先生「食育講演」

「親が子どもにできること」を聞いて 仲宗根芳美(一〇二)



白いワンピース姿で登場した瞬間、会場の雰囲気が変わり、凛とした態度と美しさは会場を魅了しました。

十一月十七日に、沖尚OGで医師として活躍する、友利新先生をお招きし、食育講演が行われました。講演前、理事長や副理事長の先生方に真っ先に挨拶を交わし、講演後は「私の話はどうでしたか?」と尋ねられ、皆さんから褒められた表情はかつての生徒の顔に戻り、やりきった感満載でした。

熱心に取り組む姿が印象的だったと言う話を聞きました。講演では、歩く習慣の大切さ、良質の油、肉より魚、甘い飲み物が体に与える悪影響、夜食に良い食物、保湿の大切さ等多くの事を学びました。講演後は、我家の生活の見直しを痛感し、親として出来る事は何かだろうか考えさせられました。息子はこれから大学受験に立ち向かいます。大学受験は体力だけでなく忍耐力・集中力も必要となります。万全で臨める様に、食の面からのサポートはもちろん、息子の夢を共有し、達成に向け積極的に関わっていきたいと思います。夢を実現し、友利先生のように活躍することを願いながら。



日本PTA創立七十周年記念式典・特別賞受賞

今般、このような賞を頂いたこと、光栄に思うのと同時にPTA活動で出会った全ての方々に感謝申し上げます。何もわからず始めた活動で、人として親として言い尽くせないほど多くの事を学ばせて頂きました。また出会った人たちは、私にとってかけがえのない財産です。この活動があった事で、四人の息子たちと楽しく有意義な時間を過ごせたように思えます。

PTAは、保護者と先生が、手を取り合い協力して子どもたちがのびのび楽しく豊かな学校生活を送る

ためのチームだと思えます。そして、大人は、いつでも子どもたちの将来(道)を照らす太陽であつて欲しいと願います。

PTA会長 樋口泰子



沖縄県高等学校PTA連合会個人の部で岩田美和(高校副会長)が長年の功績により表彰されました。おめでとうございます。



名物先生 上野浩司先生



高校地学教科担当 iEARN部顧問
iEARNとはICT情報とコミュニケーションのための技術を活用して世界と学び合う「国際教育」を推進している組織。百四十か国・地域四万校・二百万人が参加するネットワーク。二〇一八年の第三十回世界大会で十五年連続参加が評価され特別表彰を受けた。

第三十回世界大会

(十五年連続参加) 特別表彰



上野先生「アイアーン」で表彰されたとお聞きしました。おめでとうございます。

私が先生に感謝していることは、私のいいところを良く評価して褒めてくれたことです。ブラジルでの世界大会に参加したとき、忘れ物をしたり勝手にいなくなったり大惨事・手前のことをやらかしても怒り続けることはなく、そのあとの行動をよく見てくれていたことが本当にうれしかったなど今でもそう感じています。アイアーンに入部後、周りの人から「貴方は積極的になって人間的にもすごく変わったよ」とよく言ってもらっていたのですが本当にそうだと思います。ブラジルの世界大会の準備やJICAの出席準備、オープンキャンパスでのパネル展示案内は私に様々なスキルがこれから必要になってくることを気付かせてくれました。大学に入ってから授業中の発表やプレゼン作りがこれまで苦にならなかったのはアイアーンで鍛えられたからでしょうね。日本での世界大会の際は私も頑張れるところは頑張りますので！よろしくお願いします！



東京大学工学部三年 名幸映心
上野先生は変わった先生で、普段は教育熱心な先生、あるときはデジモノマニア、そして海外研修中はプロの旅行者になります。興味の幅が広く、それだけ視野も広い先生なのです。これから社会に出て行く上で必要なことだけと普通に学校で学ぶだけでは教えてくれないことを体当たりで教えてくれる、そんな先生です。



PTA副会長 名幸万里子
上野先生の活きた教育を体感出来た子供達は幸せだと思えます。
「五年後に役に立つ力を身につける」という先生のテーマが種となり、ずっと子供たちの中で育ち続けることでしょう。活動を通して身につけたコミュニケーション能力や問題に対する解決力、折れない心が、これから生きていく様々な場面で、柔軟に対応出来る人間力となつて生きていくことと思います。先生に会えて本当に良かったです。

平成30年度 表彰者一覧 9月～2月

文化活動

第47回沖縄県高等学校音楽コンテスト	ピアノ独奏の部 金賞 比嘉 桃子 (2の6)	
	ピアノ独奏の部 金賞 太田 梨胡 (2の9)	
	独唱の部 銀賞 渡慶次理緒 (2の9)	
	ピアノ独奏の部 銀賞 比嘉 良淑 (2の9)	
第73回九州合唱コンクール宮崎大会	銀賞 合唱部 (3の2)	
第47回沖縄県高等学校音楽コンテスト	弦楽器独奏の部 銀賞 比嘉 良淑 (2の9)	
第42回沖縄県高等学校総合文化祭	弁論部門 2位 爲我井愛未 (2の9)	
第42回沖縄県高文連囲碁将棋秋季大会	個人 4位 長野 航 (3の9)	
第53回沖縄県高等学校英語弁論大会	第1部 (海外経験なし) 2位 具志堅芽生 (1の2)	
	第2部 (海外経験あり) 1位 屋宜 楽人 (1の9)	
第19回沖縄県高等学校英語ディベート大会	3位 國仲元之輔 (1の9) 五十嵐涼花 (1の9)	
	伊敷 美旅 (1の9) 織田恵理子 (2の7)	
	梅木 悠華 (2の9) 太田 梨胡 (2の9)	
第42回沖縄県高等学校総合文化祭	美術工芸部門 優秀賞 石垣 穂 (1の3)	
BYUハワイ校第20回全国高校生英語スピーチコンテスト	3位 豊田 真菜 (2の9)	
第14回沖縄県高校生中国語発表大会	詩の部 3位 棚原 小春 (2の9)	
平成30年度全日本通信珠算競技大会 沖縄県大会	フッパシ算競技 第2位 宮内 新 (2の8) 前田 颯二 (1の5)	
	読上暗算競技 第2位 玉寄 拓海 (2の3) 幸地えりな (2の6)	
	読上暗算競技 第2位 宮内 新 (2の8) 前田 颯二 (1の5)	
	読上暗算競技 第2位 玉寄 拓海 (2の3) 幸地えりな (2の1)	
	読上算競技 第2位 宮内 新 (2の8) 幸地えりな (2の6)	
	読上算競技 第2位 玉寄 拓海 (2の3) 幸地えりな (2の6)	
	高等学校の部 個人総合競技 第3位 幸地えりな (2の6)	
	高等学校の部 団体総合競技 優勝 新崎 一帆 (1の5)	
	知念優里奈 (3の7) 大久保果林 (3の7)	
	幸地えりな (2の6)	
平成30年度全日本通信珠算競技大会	高等学校の部 個人総合競技 日本一 知念優里奈 (3の7)	
	第28位 幸地えりな (2の6)	
第28回九州地区高等学校英語スピーチコンテスト	第2部 (海外経験あり) 1位 屋宜 楽人 (1の9)	

第37回全九州珠算選手権大会	団体総合競技 高校一般の部 優勝 知念優里奈 (3の7)	
	大久保果林 (3の7) 幸地えりな (2の6)	
	個人総合競技 高校一般の部 優勝 知念優里奈 (3の7)	
	第2位 大久保果林 (3の7)	
	唐津市長賞 そろばん 九州一 知念優里奈 (3の7)	
	唐津市長賞 そろばん 九州一 (西日本新聞社) 知念優里奈 (3の7)	
	唐津市長賞 そろばん 九州一 知念優里奈 (3の7)	
	唐津市長賞 そろばん 九州一 大久保果林 (3の7)	
	唐津市長賞 そろばん 九州一 幸地えりな (2の6)	
	唐津市長賞 そろばん 九州一 玉寄 拓海 (2の3)	
	読上暗算競技 高校一般の部 第2位 知念優里奈 (3の7)	
	読上暗算競技 高校一般の部 第2位 玉寄 拓海 (2の3)	
	読上暗算競技 高校一般の部 第2位 幸地えりな (2の6)	
	読上暗算競技 高校一般の部 第2位 玉寄 拓海 (2の3)	
税に関する高校生の作文	那覇市長特別賞 糸村 昌大 (1の8)	
	那覇税務署長賞 國吉 乃愛 (1の8)	
第35回JPTAピアノオーディション地区予選	優秀賞・全国大会派遣 高橋 凜花 (1の3)	
第51回琉球新報音楽コンクール	ピアノ部門 高校の部 1位 伊禮新生アレキサンダー (1の3)	
	弦楽器部門 高校の部 2位 比嘉 良淑 (2の9)	
第22回ボランティア・スピリット・アワード	コミュニティ賞 地域研究部	
第1回九州・山口ジュニアピアノコンクール沖縄大会 高校の部	グランプリ 伊禮新生アレキサンダー (1の3)	
	最優秀賞 伊禮新生アレキサンダー (1の3)	
	優秀賞 具志堅芽生 (1の2)	
第30回沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学主催	高校生英語弁論大会 インプロンプト賞 中里 真由 (1の9)	
第2回全九州高等学校総合文化祭鹿児島大会	弁論部門 優秀賞 爲我井愛未 (2の9)	
青少年赤十字メンバー活動	特別功労賞 神谷 紗綾 (3の11)	
	功労賞 新城 朋未 (3の11)	
	功労賞 池谷菜里菜 (3の4)	
平成30年度沖縄県私立中学高等学校学事奨励式	学校代表表彰者 屋宜 楽人 (1の9)	
第9回日本パッハコンクールinOKINAWA	優秀賞 高橋 凜花 (1の3)	

スポーツ活動

全日本ジュニア柔道選手権大会	男子個人81kg級 ベスト8 仲嵩 爽由 (3の13)	
平成30年度沖縄県高等学校新人体育大会 テニス競技	女子団体 優勝 平林 夏帆 (2の11) 長濱 帆伽 (2の11)	
	石川さくら (2の4) 高岡 鈴蘭 (1の11)	
	山本 未来 (1の11) 藤永 笑子 (1の11)	
	丑番 希恵 (1の11) 松本 祐華 (1の11)	
	仲間 舞 (2の11) 大村 健太 (2の1)	
	知念 泰我 (2の11) 村上 典 (2の11)	
	桑原 太陽 (2の11) 奥村龍太郎 (1の11)	
	新垣 勇斗 (1の11) 謝花 海希 (1の11)	
	荒川 拓来 (1の11)	
平成30年度 沖縄県高等学校新人体育大会 柔道競技	男子団体 優勝 大城 盛舟 (2の11)	
	男子個人 60kg級 優勝 糸数未来斗 (1の11)	
	66kg級 準優勝 知念 航平 (2の11)	
	73kg級 準優勝 早川 潤 (1の11)	
	81kg級 優勝 波平 泰輝 (2の11)	
	90kg級 優勝 三浦 大樹 (2の11)	
	100kg級 優勝 岸良 武輝 (1の11)	
	100kg超級 優勝 山里 健太 (2の11)	
	100kg超級 準優勝 与那嶺 快 (1の11)	
	100kg超級 準優勝 金城 嘉生 (2の11)	
	100kg超級 準優勝 仲村 一輝 (2の11)	
	100kg超級 準優勝 屋田 継心 (2の11)	
	100kg超級 準優勝 比嘉 大翔 (1の11)	
平成30年度 沖縄県高等学校新人体育大会 空手道競技	男子個人組手-61kg 優勝 垣花 聖武 (1の6)	
	女子個人組手-59kg 優勝 嘉数 雨乃 (2の6)	
	-59kg 準優勝 比嘉 桃子 (1の11)	
	+59kg 優勝 林 愛由菜 (2の8)	
JOCカップ第39回全日本ジュニア選抜	室内テニス選手権大会九州予選 九州テニス協会選出 松本 祐華 (1の11)	
九州高等学校新人体育大会 柔道競技	男子個人 60kg級 3位 糸数未来斗 (1の11)	
	100kg級 3位 仲村 一輝 (2の11)	
第38回全九州高等学校空手道新人大会	女子個人組手+59kg 準優勝 林 愛由菜 (2の8)	
第38回全九州高等学校空手道新人大会 南ブロック	女子個人組手-59kg 優勝 嘉数 萌乃 (2の6)	
	+59kg 優勝 林 愛由菜 (2の8)	
	女子団体組手 5位	
第43回沖縄県高等学校野球1年生大会	優勝	
第41回全国選抜高校テニス大会 九州地区大会	女子団体 優勝 平林 夏帆 (2の11) 長濱 帆伽 (2の11)	
	石川さくら (2の4) 高岡 鈴蘭 (1の11)	
	山本 未来 (1の11) 藤永 笑子 (1の11)	
	丑番 希恵 (1の11) 松本 祐華 (1の11)	
第18回おきでん旗争奪	第37回沖縄県なぎなた大会	
	団体試合 高校生の部 優勝 金城 凜 (2の6)	
	個人試合 高校生の部 3位 金城 凜 (2の6)	
	演技競技 高校生の部 2位 金城 純鈴 (2の11)	